AI 倫理のためのローマからの呼びかけ

「広島追加文書」

前文

生成 AI に関する倫理的ガバナンスは、そのリスクを軽減し、社会へのメリットを最大化するために不可欠なものである。私たちは「AI 倫理のためのローマからの呼びかけ」の原則にしたがって、人間を中心に据えたガバナンスというものを考えなければならない。それは、AI の開発と利用において、特に生成 AI については、基本的人権を尊重し、個人と集団の幸福を促進するような、人類の善に向けたものとしなければならないということである。

このガバナンスには、人々に対する、また地球に対する正義というものを絶え間なく呼びかけていくことも含まれる。

原則への新たな理解

「ローマからの呼びかけ」を踏まえ、その 6 つの基本原則において、この課題に対する特別な価値がどのように見出せるかを次のように考えることができる：

- 透明性：機械によって生成されるものは、画像、音声、ビデオ、テキスト、シミュレーションなど、どれほど本物に似ていようとも、各ユーザーが即座にそれらを機械が生成したものと認識できるものでなければならない。

- 包摂性：人間は地球上でさまざまな文化、伝統、言語の中で共存している。これらのツールは、この無形の人類の遺産すべてを包摂し、その多様性を尊重できるものでなければならない。

- 説明責任：パンデミック期間中、また世界各国の最近の選挙などで、オンライン上の誤情報やフェイクニュースが頻繁に話題となり、デジタルコンテンツの出所や信憑性を証明する基準作りの必要性が明らかになった。画像、ビデオ、音声などのデジタルコンテンツの出所と履歴を追跡するための、信頼できる方法を提供する必要がある。

- 公平性：生成 AI で作成されたコンテンツが、既存の偏見を恒久化させたり助長したりすることのないようにしなければならない。

- 信頼性：生成 AI の社会的展開は、それが生み出す社会的影響力を考慮すると、これらシステムの信頼性と堅牢性への特別な注意が必要となる。

- セキュリティとプライバシー: これらのシステムの強大な力に対して、ユーザーのセキュリティとプライバシーを確保することが極めて重要である。

最終考察

「ローマからの呼びかけ」の原則がこのテクノロジーの最前線に与えるインパクトは、署名者の倫理的コミットメントが、いかに技術開発に責任と持続可能性を伴わせるものでなければならないかを示している。

実際、生成 AI の開発者、供給者、ユーザーがその使用に責任を持つことが最も重要なことであ

る。また使用される技術が地球に与える長期的な環境面および社会的な影響も、避けては通れない考慮すべき視点である。

生成 AI の倫理的ガバナンスは、すべての関係者が絶え間なくコミットしていかなければならない継続的かつ相互作用的なプロセスである。協働して責任あるアプローチをとることによってのみ、人類の善に向けた生成 AI の可能性を最大限に活用することができるのである。